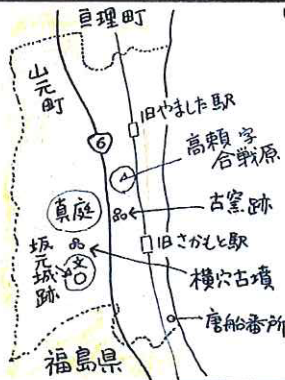


ふくらく通信

2014年第2号 7月16日発行
 総号数 68 発行人 菅野香織

さらに、史跡は江戸期にわたって残っており、昭和40年代に、仙台領25ヶ城を記録した史家がいながら、山元町だけでも11ヶ所の古城や館を確認している。
 坂元城(葦首館)もその一つだ。
 この城主は、今では平運家の重臣であった大條氏

高瀬に合戦原という場所があった。そこが古くは夷族(蝦夷または渡来人など異民族)の群棲地だったと伝承されていたそうだった。
 山元では、実際に古代の遺物も出土されている。



坂元城(葦首館) ～ 山元町坂元 ～

宮城の最南端である山元町は昔、北は山下村、南は坂元村に分かれていた。山元町の真庭通りが境だったという。



現在は、坂元神社や坂元小学校のある所が葦首館跡。

小学校の校舎脇から曲りくねった坂道を上がると、先は開けた台地となり、奥に神社がある。ここが葦首館の本丸。神社の裏手には、空濠もある。

と案内板にあるが、昭和40年代の調べによると、もとは地方豪族の坂元氏が主であったという。
 戦国時代、坂元氏は相馬氏の攻撃を受け、愛宕山城(坂元中学校近く)が落城したため、葦首館に移ったそうだった。
 しかし、その後には伊達氏に攻め入れられ、ついに坂元氏は滅亡してしまっただ。
 以降、大條氏が葦首館の主となったという。

被災地の輝き 山元町 町の宝、史跡を見る

坂元城(葦首館)本丸跡、坂元神社の裏手にある空濠。(空濠は、敵の侵入を防ぐための通路)



坂元小学校は二の丸にあたる。小学校と神社の周りを囲んで、もとは濠があったそう。
 神社の裏手奥(空濠の奥)は、丘陵の林。
 城と外を分断するよう大きな外濠が築かされていたという。
 小学校の北面に三の丸があったが、今は住宅地。



写真: 2011年12月撮影
 記事: 2012年7月公表文を編集



小学校北面近くには古い土間の門がある。民家に隣接しているが、この門も史跡。
 葦首館の大正門が大條氏の頃に移築されたものという話がある。

2011年に見た時は、柱に斜めの支えが入っていた。震災で土台にひびが入り、門も傾きが大きくなってしまったという。応急工事で支えが施された。



かつてこの門には、代々伝えられてきた話があったそう。
 伏見城の門の一つを豊臣家から伊達政宗公が拝領し、後に大條氏に下賜されたものという話。
 実際のところよく分らないのだが、こうした史跡が残っているのは素晴らしいこと。
 この町で先人がどんな風に暮らし、長い時を経て、我々へと繋いできたのか。
史跡は、町の宝だ。